

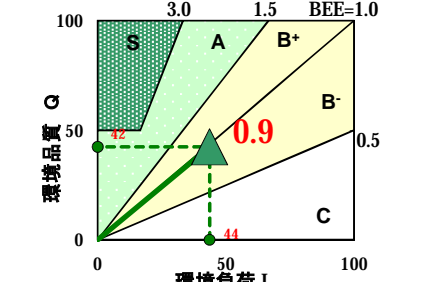
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪大谷大学体育館新築工事他	階数	地上2F
建設地	富田林市錦織北3丁目	構造	S造
用途地域	第二種中高層・準住居、準防火	平均居住人員	150 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,100 時間/年(想定値)
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2019年12月12日
敷地面積	4,800 m ²	作成者	前博之
建築面積	1,870 m ²	確認日	2019年12月12日
延床面積	2,469 m ²	確認者	藤江比呂子



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

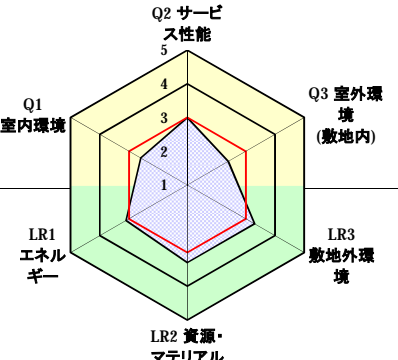
☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	91%
③上記+②以外の	91%
④上記+	91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

音環境	1.6
熱環境	2.2
光・視環境	N.A.
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

機能性	2.5
耐用性	3.3
対応性	3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.5
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	3.3
地域環境	3.5
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
屋根の断熱性能の向上と、風向きを考慮した窓配置により、中間期には空調に頼らずに快適な体育館とする。		
Q1 室内環境 ゾーン別に冷暖を切り替えられる空調計画としている。	Q2 サービス性能 維持管理が行いやすいように、拭き掃除がしやすいシートやタイルを主たる床材としている。清掃用具庫(SK)を各階に設置している。	Q3 室外環境(敷地内) 既存校舎のスカイラインから突出することのない高さとしている。キャンパス内の樹木や耳鼻師の御堂の保存に努めている。
LR1 エネルギー 屋根の断熱性能を高め、遮熱性を高めている。	LR2 資源・マテリアル 再利用しやすい建材や、節水型の衛生器具を採用している。	LR3 敷地外環境 適切な駐車場や駐輪場の確保をおこなっている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0132

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	大阪大谷大学 体育館新築工事他					
		建設地	富田林市錦織北3丁目					
		用途/区分	集会所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3		
②	みどり・ヒート アイランド対策					2		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					3		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				4.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.5	3	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項		<ul style="list-style-type: none"> ・昼光率の確保に努めている。・換気量への配慮を行っている。・全館禁煙とし、空気質環境に配慮している。 ・広さ感に配慮している。・維持管理に努めている。・耐用年数の長い部品部材を採用している。 						